



校長室だより 2

黒部市立村椿小学校

文責：校長 寺島紀子

令和7年7月24日

第14号

22日（火）は二十四節気の「大暑」。ここから2週間が一年で最も暑さが厳しい時季とされますが、…そもそも今年の夏は6月後半からずっとずっと厳しい暑さ続きで1学期の終わりを迎えます。先週からは「熱中症警戒アラート」や暑さ指数（WBGT）を判断材料として、屋外での活動を原則中止にする日も何日かありました。休み時間の外遊びが大好きな子供たちも校内での遊びに切り替えて、なんとかエネルギーを消化していたようです。

夏らしい天気が続いた1か月間、プールの学習は例年以上にたくさん行うことができました。堀田悦子先生（吉田出身）の特別授業も含めてのべ44時間（各学年平均7回）プールの学習ができました。

夏休みは25日（金）から8月7日（木）までの10回、いずれも午前中にプールを開放します。監視員を務めていただく保護者の皆様には、大変お世話になりますがよろしくお願いいたします。

「よく学びよく遊べ」生活リズムを整え、夏休みを実りあるものにしましょう

明日からいよいよ夏休みです。子供たちは38日間の長い期間をどのように過ごそうかと期待に胸をふくらませているようです。一方、ご家庭によっては保護者の方が日中ほとんど家を留守にしているお宅も多いことでしょう。その間子供をどのように過ごさせようか、お昼ご飯はどうしようか等々、頭を悩ませておられるのではないのでしょうか。

ある4年生の子と話をしていると「今年から学童保育は使わず家で過ごします。お昼はお母さんが（お弁当や何か食べられるものを）用意しておいてくれるし、プールへは自転車で行けるし…」と教えてくれました。学年が進むにつれ、少しずつそうやって子供に任せてみるお宅も多くなっているのでしょうか。学校からは夏休みの過ごし方のプリントを配りましたが、それぞれの家庭に合ったルールや親子の約束事を工夫しながら、お子さんがぐんと育つ夏休みとなることを願っています。

★生活リズムを崩さぬ者、午前中を上手く活用する者が夏休みを制す

これまで数多くの児童生徒の様子を見てきた経験から、私が確信するのは「生活リズムを崩さぬ者が夏休みを制す！」、とりわけ「午前中の時間を上手く活用する者が夏休みを制す！」ということです。時間が自由に使えるとはいっても、やはり規則正しい毎日を過ごすことが大切です。心と体の調子が整うことで勉強も遊びも思い切り楽しむことができます。少なくとも平日の午前中は（ラジオ体操やプール開放等を上手く利用して）一定のリズムを守り、「よく学べ」に力を入れた生活を心がけてほしいと思います。

子供にとって分かりやすいのが「時間割」の考え方です。「今日は3・4時間目が体育（プールも体育ですよ！）だから、1時間目は国語、2時間目は算数をしよう」と、その日の朝でよいので、親子で午前中の時間割を決めることをおすすめします。そして夕方～夜には、親子の会話の中でその日の時間割の達成度を具体的に振り返るようにしてはどうでしょうか。

★午後はフリータイム！ でも「おやつ」はほどほどに…

午前中だけでも毎日規則正しく過ごせたら、午後は「放課後」です。「よく遊べ」を満喫できるのは夏休みの醍醐味ですよ。思い切り身体を動かしたり、好きなことに打ち込んだり、…。ただしゲーム三昧にはならないようにくれぐれも注意してくださいね。ゲームは「おやつ」のようなもの、いくらおいしくても頭の栄養、心の栄養にはならず、むしろ頭と心の健康を害することもあります。食べ過ぎ注意です。

時間割自分で決める夏休み よくよく学びよくよく遊べ 紀子

それぞれの子供が自分なりの目当てをもち、大いに学び大いに遊ぶ、楽しい夏休みとなりますように。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名（ ）



全校で点数アップ！ がんばりが目に見えた計算大会

9日（水）にたし算、18日（金）にひき算の「校長杯計算大会」を行いました。2年生以上にとっては今回4回目の大会となりました。単純な計算問題を2分間で解けるだけ解くというシンプルな大会ですが、回を重ね少しずつ全校の平均点が上がっています。昨年度同時期の点数と比べるとたし算・ひき算とも平均で10点前後高くなりました（2分間で平均10問多く解けるようになったということ）。

「昨年度よりものびたで賞」では、特にひき算で去る3月の大会より65点も伸びた子がいて、結果発表の際にどよめきが起こりました。インタビューすると、練習問題を何回も繰り返したとのこと。やはりそれが一番の近道なのですね。

今年度の2回目は11月～12月に行う予定です。



シリーズ「教室におじゃまします」7月23日（水）6年社会科の巻

この日は「富山大空襲を語り継ぐ会」の語り部の方からお話を聴く特別授業でした。

語り部の稲垣よし子さん（富山市）は当時国民学校4年生。学校生活は戦時色の強いものだったことや、出征するお兄さんを見送った思い出、そして1945（昭和20）年8月1日夜の富山大空襲の時の実体験を、具体的な場面の描写や自作の資料等を使って説明を交えながら詳しくお話しされました。特に、近くの学校や自宅、周りの建物があっという間に炎に包まれる中、神通川へと逃げた話、すぐそばにいた人が爆撃で亡くなったり負傷したりした話等、どれも生々しく、聴いている子供たちの顔も真剣でした。話の締めくくりとして稲垣さんは「皆さんには戦争のない世界をつくる努力をしてほしい」と話されました。

残りの時間は戦時中の道具や教科書、当時の写真資料等を実際に手に取ってみることができました。ぼろぼろの防空頭巾を実際に頭にかぶっている子もいました。初めて聴く話、初めて見る資料の数々に、考えさせられることの多い授業でした。



<おまけのひとりごと>語り部の稲垣さんは、富山の空襲後はしばらく黒部市（石田郵便局の辺り）に縁故疎開をしておられた時期があったとか。地元の子供の輪に入っていこうとしても、じゃんけんのかけ声一つにも「言葉の壁」を感じたそうです。そうして無口で笑わない子のままだったそうですが、その後富山市に戻り、中学生になってからは勉強に打ち込むなど「努力して自分を変えた」ことで「生きていく自信が生まれました」と、力強くお話しされました。御年90歳とは思えないほど生き生きとおられました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想などをお知らせください。お待ちしております！

校長室だよりへの感想

切り取り

できればお名前 or 児童名（

）